

漁 具 圖

1 網 漁 具 類

1) 刺 網 類

(1) 底 刺 網 類

1 磯建網 < 壱岐・対馬編 >

調査地 峰町狩尾

沿革 不明

1) 漁 具

(1) 見取図

- (イ)内網 (ロ)外網 (ハ)浮子縁網
 (ニ)沈子縁網 (ホ)浮子綱 (ヘ)沈子綱
 (ト)浮子添綱 (チ)沈子添綱 (リ)浮標綱
 (ヌ)浮子 (ル)沈子 (ヲ)浮標 (ワ)碇

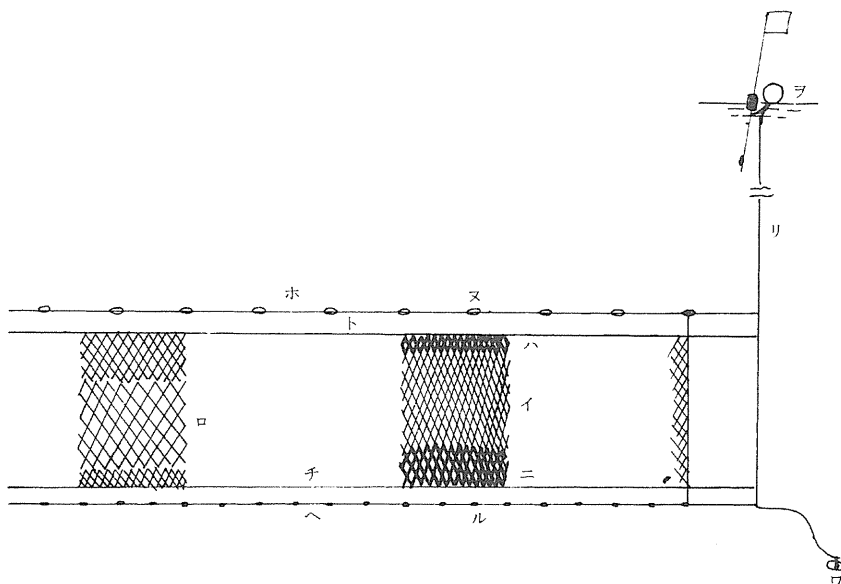


図1 一般構成

(2) 漁具仕様

(イ) 網 地

表1 仕様表

符号	名称	材質	太 さ	目合	掛目	長さ	仕立上長	備 考
(イ)	内 網	アミラン	210d 8本左 2子撚り	9 cm	50目	75m	37.5m	外網は浮子縁網を含めて、沈子方から20目のところ。また沈子縁網2目のところに取り付ける。
(ロ)	外 網	アミラン	210d16本左 2子撚り	45cm	5.5目	62m	37.5m	
(ハ)	浮子縁網	アミラン	210d33本左 3子撚り	9 cm	1目	75m	37.5m	
(ニ)	沈子縁網	アミラン	210d33本左 3子撚り	9 cm	2目	75m	37.5m	

(ロ) 網 類

符号	名称	材質	太 さ	長 さ	本数	備 考
(ハ)	浮 子 綱	ポリ	6 mm 右 3子	41.5m	1本	両耳綱分を含む
(ヘ)	沈 子 綱	クレモナ	240本 右 3子	41.5m	1本	〃
(ト)	浮子添綱	ポリ	4 mm 左 3子	41.5m	1本	〃
(チ)	沈子添綱	クレモナ	240本 左 3子	41.5m	1本	〃
(リ)	浮 標 綱	ポリ	9 mm	水深の1.5倍	2本	
	仕立て糸	クレモナ	36本			1本糸で仕立てる。

(ハ) その他

符号	名称	材質	規 格	個 数	備 考
(ヌ)	浮子	合成浮子	C10L	63~65個	
(ル)	沈子	鉛	37g	175個	
(ヲ)	浮標	プラスチック	径180cm	2個	韓国製プイ、投網した網の両端に1個ずつ
(ワ)	碇	自然石	4~5 kg	2個	浮標の下に1個ずつ付ける。

2) 漁 法

使用反数は普通30反前後で、日没1~2時間前に投網する。

投網方法は2~3ノットの船速で、瀬の上に“ジグザグ”あるいは瀬を取り囲むように船尾から投網する。揚網は翌朝日の出30分前ぐらいから行うが、風の強い時はスパンカーを上げ船を風に立て、風下から風上に向け、また風のない時は潮上から潮下に向け船首左舷側に取り付けた揚網機を使用して揚網して行く。

漁獲物は揚網中その都度網からはずし、活着ているものは漁船に活かしておくが、漁獲物の多い時は活着ているもののみ取りはずし、死んでいるものは帰港中あるいは帰港してから行う。

揚網に要する時間は通常20~30分で、帰港中や帰港後に網を整理し次の投網にそなえる。

3) 使用漁船および乗組員

漁船は5トン未満、20～60馬力で、乗組員は2～3名である。

装備品は魚探、無線機(1W)、揚網機などで、揚網機は地元鉄工所で自動車ミッションを電動式に改造したものである。

4) 漁期・漁場

漁場は共同漁業権内のごく沿岸部で、水深は15～20m位のところである。

漁期は9月から翌年4月までで、盛漁期は3～4月であるが、周年操業を行っている者もある。

漁期中は荒天でないかぎり毎日出漁するが、漁獲成績の良いのは闇夜の大潮時で、月夜は一般に不漁である。

5) 漁獲物

主対象魚はメジナで、年間総漁獲物の80%を占め、その他、ブリ、タイ、カワハギ、カサゴが比較的多い。1日当り漁獲量は良い時で30kg、平均10kg前後で、年間の総水揚金額はおよそ50万円前後である。

2 沖建網〈宍岐・対馬編〉

調査地 峰町佐賀

沿革 沖建網は昭和35～36年(1960～1961年)、当地へ導入され、当初3年間は峰村地先で操業していた。その後対馬固定式刺網組合が結成されて漁場が拡大すると共に、喜三郎曾根やカツオ曾根まで出漁するようになったが統数の増加、資源の減少、加えて近年の燃料の高騰などから、また地先沿岸で操業するようになった。

1) 漁具

(1) 見取図

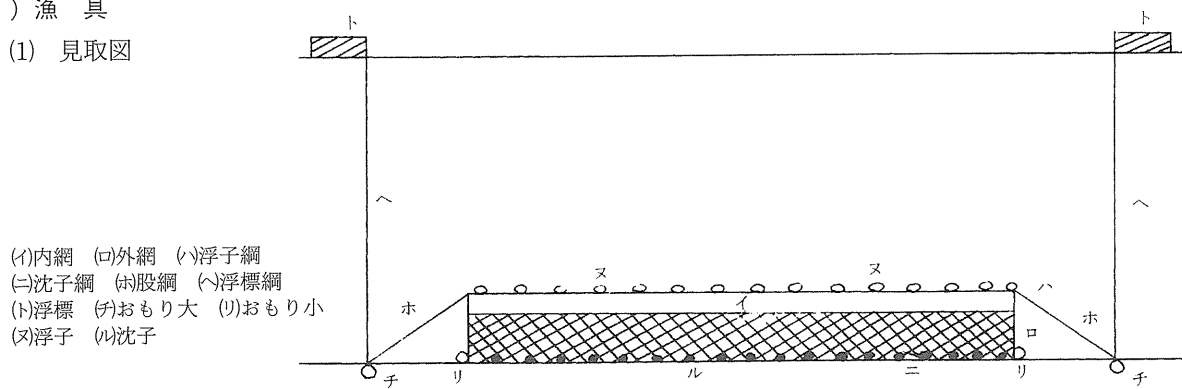


図2 一般構成

(2) 漁具仕様 (一反につき)

表2 仕様表

符号	名称	材質	太さ又はは重さ	目合又は個数	掛目・長さ	反数又は個数	備考
(イ)	身網 内網	アミラン	12本	10.5～12cm	40～47目 52.5～54.4m	1反	縦横縮結内割4割
(ロ)	身網 外網	アミラン	20本	45cm	8目53.6m	2反	横縮結内割3割 三重網仕立上り網丈3m
(ウ)	浮子網	ポリエチレン	8～9mm		37.5m	2本	左撚, 右撚各1
(エ)	沈子網	クレポリ	7mm		39.0m	2本	左撚, 右撚各1
(オ)	股網	ポリエチレン又はクレモナ	9～12mm		6m以上	4本	網丈の2倍以上
(カ)	浮標網	ポリエチレン	12～16mm		水深より少し長め	2本	網の両端につける股網と同じ、普通浮子網及び沈子網は手先として45cmずつ延ばし網の結着に用いる。
(ク)	浮標	発泡スチロール ドラム型	3つ切り			2個	投網反の両端につける。

符号	名称	材質	太さ又はは重さ	目合又は個数	掛目・長さ	反数又は個数	備考
(イ)	おもり大	自然石	15~18.75kg			2個	
(ロ)	おもり小	自然石	3.75kg			2個	
(エ)	浮子	クラレフロートップ	0~5型	60個			1個の浮力61g
(ハ)	沈子	鉛	9~11.3kg				小さな物を沢山つける方が良い。

註 沈降力 (S)=8.21kg~10.30kg 浮力 (B)=3.66kg
 浮子綱1.5m当り 浮力146.4g
 浮子綱1.5m当り 沈降力328.4g~412.0g S/B=2.24~2.81
 1連は規則により1,500m以下 (15反) 予備10反とする。

2) 漁法

沖合漁場で操業していた頃は夕方投網し夜半揚網し、また投網して夜明けに揚網する2回操業であったが、近海操業になって、夕方投網し夜明けに揚網する1回操業になった。

投網は魚探で瀬をみつけるとその上に潮上から船を潮流に流しながらジグザグに投網する。揚網は潮だるみに行うが、急潮のため網があがらないという事は殆どなく、瀬にかけても沈子綱が切断するだけであがる様に仕立てている。なお、揚網にはネットホーラーを使用している。

投網の際、網の両端に赤、白の旗と点滅灯をそれぞれ取り付け、船は投網位置付近を流す。

3) 使用漁船および乗組員

船は12~13トン、60~75馬力で長さ10.5m、3~5名の乗組である。トランシーバーを装備しており互に漁模様の連絡を行っている。

当漁協では昭和51年(1976年)当時17統が操業しているが、盛期には24統が操業する。また、魚探を装備しており漁場選定に用いる。

4) 漁期・漁場

漁期は3~10月で、3~4月が盛期である。夏は魚価が下ると氷が沢山いるので、7、8月は休漁することが多く、年間50日位の操業である。

漁場は峰地先より北または北々東に1~1.5時間走った水深90~110m位の瀬のあるところで、最近ウマズラハギが増加しているため、魚探でウマズラハギか他の魚種かを判断して投網している。

5) 漁獲物

タイ1~3kg、オキメバル250~300g、チダイ500gなどが主漁獲物で、他に、カレイ・エソ・メダイ・大アジ・サバなどが漁獲される。年間漁獲金額は最低50万円、最高300万円位である。

6) 気象海況などの言い伝えその他

大潮の時は漁が悪い、また同じ瀬に何隻もが順次投網することがあるが、揚網の際一番最後に投網した網から順に順序を間違えず揚網する限り、何隻投網しても魚のかかりは平均化している。このことは網が瀬の上におちた瞬間に羅網するものと考えられている。なお、タイは瀬の一部に、ブリ・ヒラマサ・カンパチは瀬のどの部分にもいると言われている。また漁獲物中のカレイが生簀の中ですぐ死ぬので効率の良い生簀の開発が望まれている。

3 沖建網〈巻岐・対馬編〉

調査地 上対馬町西泊湾

沿革 不明

1) 漁具

(1) 見取図

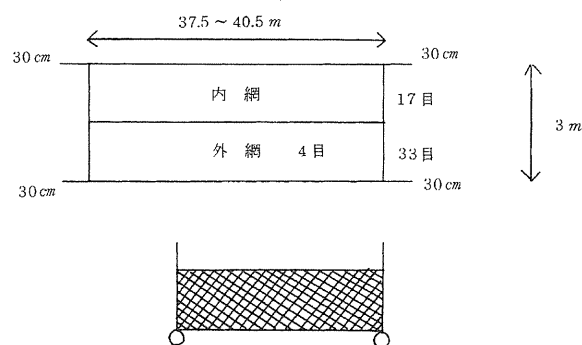


図3 一般構成

(2) 漁具仕様

表3 仕様表 (1反分)

名称	材質	太さ又は目合	掛目及び長さ	個数又は反数	備考
身網 内網	ナイロン	8~10本 12cm	50目×75m	1反	50目のうち上から17目のところに外網がつく。
身網 外網	ナイロン	18本36cm	4目×53.6m	2反	網丈3m縦縮結内割の0.333
浮子網	クレモナ	4~5mm	37.5~40.5m	1本	両網端30cmずつ延長
浮子添網	スパンナイロン	3mm	37.5~40.5m	1本	
沈子網	クレモナ	5mm	39.0~42.0m	2本	両網端30cmずつ延長
浮子	クラレ フロートップ	C-5	浮力52g	50個	総浮力B=2,600g
沈子	鉛	37.5g		170個	総沈降力S=5,814g
浮標網	クレモナ	8mm	50~90m	1本	
浮標	硝子玉	径30cm		2個	
竹竿		径3~5cm	1.8m	2本	
おもり	自然石	5kg		2個	網の両端につける

2) 漁法

2 峰町佐賀の沖建網に準ずる。

3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は5トン、39馬力、2人乗組で、ネットホーラー、トランシーバーを装備している。

4) 漁期・漁場

漁期は3月~10月までで、6~8月が盛期である。

漁場は地先の水深30~80mのところで操業している。

5) 漁獲物

主な漁獲物はチダイ、イサキ、マダイ、メジナで、イサキ、マダイは6~8月、チダイは秋に漁獲され1日最高300kg、年間出漁日数100日、水揚金額最高で200万円位である。

4 ブリ曲刺網〈宍岐・対馬編〉

調査地 上対馬町豊崎

沿革 昭和31年(1956年)、ナイロン網が普及するにつれて当地でブリ曲刺網が行なわれるようになり、昭和51年(1976年)当時、40統が操業している。

1) 漁具

(1) 見取図

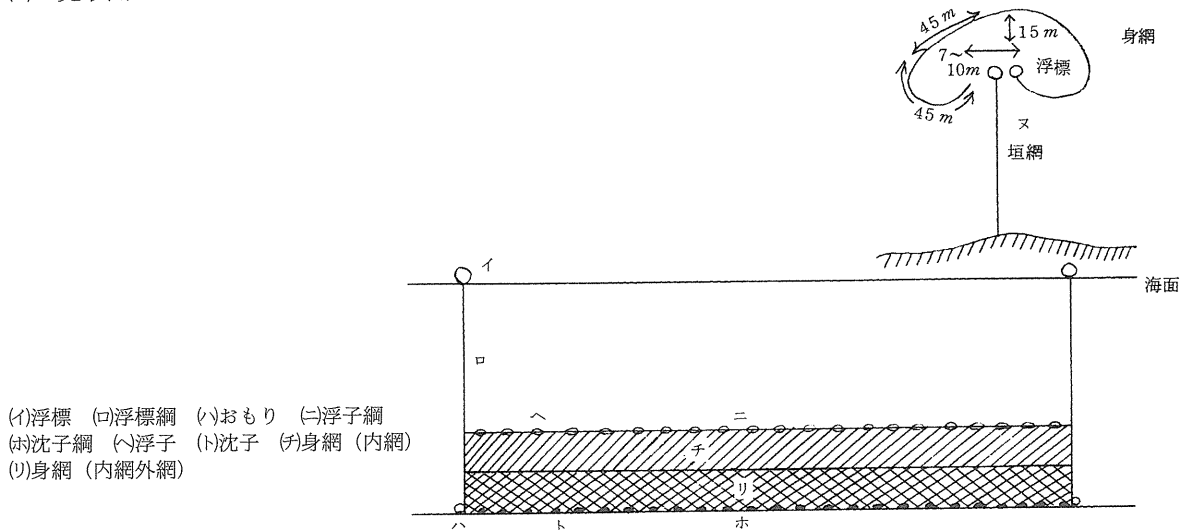


図4 一般構成

(2) 漁具仕様

表4 仕様表

符号	名称	材質・規格	大きさ又は太さ	長さ又は重さ	個数	備考
(イ)	浮標	合成樹脂	径30cm		4個	身網, 網口部に3個, 垣網に1個
(ロ)	浮標綱	ポリエチレン	12mm		3本	水深の3～4.5m増し
(ハ)	おもり	自然石		15kg	4個	浮標の下につける。また身網の曲げた角々に(4～5個)鉛187.5g×30個をつける。
(ニ)	浮子綱	クレポリ	5.5mm	172.5m	2本	左撚, 右撚, 各1本ずつ
(ホ)	沈子綱	クレモナ	8～9mm	180m	2本	左撚, 右撚, 各1本ずつ
(ヘ)	浮子	合成樹脂	クラレフロー トップF-23		110個	1個の浮力234g, 浮子綱1.5m当り浮力223.8g
(ト)	沈子	鉛		187.5g	700個	1個の沈降力171g, 浮子綱1.5m当り沈降力1,040.9g, B/S=4.65

符号	名称	材質・規格	大きさ又は太さ	目合	長さ又は重さ	個数又は反数	備考
(フ)	身網(内網)	ナイロン	15本	15.0～15.3cm	130目×450m	1反	上部70目1重網, 下部60目3重網, 上部の縮結縦内割の0.28, 横0.40
(リ)	身網(外網)	ナイロン	21～24本	45cm	6目	2反	下部縦0.50, 横0.62, 外網の縦縮結0.17横0.40仕立上り上部4.5m, 下部3.3m
(ヌ)	垣網	ナイロン	18本	12cm	100目×300m	1反	縮結, 縦, 横, 内割の0.40, 仕立上り8m×180m, 浮子, 沈子は身網と同じ途中4ヶ所に8～10kgの石をつける。

2) 漁法

日の出前漁場に到着し投網, 夕方3～4時頃揚網する, 1日1回操業。規則により海中に1日しか建込んではいけない。

3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は木造, 4トン, ヤンマーディーゼル25馬力で, ネットホーラーを装備し, 乗組員は3名である。

4) 漁期・漁場

漁期は4月中旬より9月下旬までの6ヶ月間で盛期は6～9月である。

漁場は地先沿岸の水深20～25mのところ, 永年にわたり漁場は一定しており, 3日ずつ交替で漁場の持ち廻りをしている。

ブリは少し深みを通過するようで, ブリの通る道はこの漁法の導入以来変わっていない。

5) 漁獲物

主な漁獲物はヤズ(ブリの仔)1尾800g～1kg, ブリ1尾10～12kg, ヒラマサ1尾1.5～2.0kgのもので, 6～7月にとれる。ヤズで1,200kg, ブリで70尾漁獲したのが最高である。年間水揚金額は300万円位で比較的安定している。

6) 気象海況などと漁模様に関連した言い伝え等

- (1) 晴天の日は漁獲が良い。
- (2) 朝方風でその後風が吹いてくるような時は漁獲が良い。
- (3) 雨降りの濁りの時は漁獲が悪い。
- (4) ブリはヤズに比べ深みを泳ぐ。
- (5) 漁場は潮が早く底があらいい程良い。
- (6) 身網が潮に吹かれて変形しているような時は, 垣網に羅網するが, 普通は身網にかかっている。